

第21回全国銀行大会における総裁挨拶要旨

本日、ここに第21回全国銀行大会が開催されるに当たり、所見を申し述べる機会を得ましたことは、わたくしの深く喜びとするところであります。

(景気情勢)

昨年の本大会以降最近まで1年間の推移をふりかえりますと、経済情勢はまことに顕著な変化を遂げております。すなわち、昨年前半におきましては不況の影響が経済各面に相当残っておりまして、民間投資活動の前途には確たる見通しが立ちがたく、財政支出の拡大などによって景気がようやく立ち直りはじめた状況にあったのであります。しかるに、その後民間設備投資は予想外に急速な増大を示し、これを主軸として経済活動は著しく活発化し、企業収益も好転するに至っております。

このように、景気は明らかに大幅の上昇過程をたどっているのでありますが、その反面輸入の増勢、輸出の伸び悩みがみられ、このため年初来貿易収支の黒字幅がかなり縮小し、総合収支もこのところ連続して赤字を示すなど、国際収支の動向には楽観を許さないものがあるのであります。また、昨年来の大幅上昇によりその動向が注意されておりました卸売物価は、3月以降弱含みに推移しておりまして、この面から景況は落着きぎみのようにもみえるのでありますが、しかし、旺盛な

設備投資を中心に、現在経済活動は全体として昨秋来と同じ拡大歩調を持続しており、諸般の情勢から推してこの拡大速度が当面鈍化する気配はうかがわれないのであります。

一方、目を海外に転じますと、昨秋ごろまで異常な上昇を示していた欧米諸国の金利は、その後かなりの低下傾向を示しております。この事実は、これら諸国の景況が総じて伸び悩まないし停滞していることを示すものでありまして、特にわたくしどもの関心の深い米国の経済諸指標は、最近ようやく下げ止まったようにもみられますものの、その回復の時期と速度についてはなお判然とは見定めがたい段階にあります。また、欧州諸国のなかにも経済成長率の著しい停滞を示すものが見受けられ、このまま推移いたしますと、いわゆる内外景気のスレ違いに伴う問題が生ずるおそれもあると思われるのであります。最近、世界の政治情勢がめまぐるしいほどの変化を示しているだけに、われわれは、海外諸国の動向には常時注意を怠ってはならないと考えるのであります。

今後、海外金利の低下から内外金利の関係はかなり変化し、対外短期金融取引の面では昨年と逆の現象が生ずるでありましようが、しかしその反面、本年のわが国の輸出環境はきびしいものがあることを覚悟しなければならないと思うのであります。わが国の国際収支が、貿易外収支と資本収

支の構造的赤字を、貿易収支の黒字により補てんしなければならないという形になっていることを考慮いたしますと、なんと申しましても、一段と輸出の振興に努力し、貿易収支の十分なる黒字を確保することが肝要であります。たとえ外国為替銀行の短期外資などの取入れが増大し、外貨準備にさほどの変動が生じないといいたしましても、貿易収支の黒字幅縮小により国際収支の総合勘定が長きにわたって赤字を継続することは、好ましい事態とは決して申せないであります。したがって、今後、特に国際収支の動向に注意し、経済の拡大速度を必要に応じ弾力的に調整することが肝要であります。

次に、民間産業の設備投資計画は著増を示しつつありますが、これらの大部分は供給能力の不足、労働力需給のひっ迫、資本の自由化の進展などに対応しようとするものであり、それはそれとして当然必要なことと思われるのであります。しかし、設備投資の目的自体はいかに適当でありましようとも、短期間にあまり集中いたしますと、目標に到達するまでの過程において大きな摩擦が生ずる可能性なしとしないのでありまして、したがって民間企業におかれては、投資にあたってぜひとも諸般の情勢を十分に考慮され、節度ある態度を堅持されることが望まれるのであります。

(財政と金融の調整)

以上のような内外の経済動向にかんがみますと、現在金融政策の基調を直ちに変更しなければならない、とはもちろん考えておりませんが、今後情勢の推移を慎重に見守りつつ、金融の自律的な調整機能を働かせてゆくとともに、情勢の変化

にいつでも弾力的に対応しうる体制を整え、それによって息の長い経済成長を確保しなければならないと存するのであります。

さきほど申しましたような国内の景気上昇に伴い、金融面においては、すでに銀行券の増勢、財政の揚超傾向が強まりつつあり、このところ金融市場は小締まりぎみになっていることは、ご承知のとおりであります。

一方、昨年は投資活動が活発化したわりに資金の借入需要は増加せず、企業金融は緩和ぎみに推移したのであります。本年は設備投資の増加に伴い、借入需要も相当増大するものと思われ、その結果、公共部門と民間部門の資金需要が競合する可能性もかなりあると思われ。この両部門のいずれを優先させるべきかは、もとよりその時の情勢により決められるべきではあります。その調整の基本は、あくまで市場の実勢を尊重するというのであります。すでに昨年の本大会においてわたくしは、国債政策の導入に当たり財政と金融の円滑な調整を図るためには、公社債市場で形成される既発債相場の変動を十分に勘案して、起債額および起債条件の調整を行なう慣行を確立することが肝要であると申したつもりであります。本日このことを改めて強調いたしたいのであります。

租税は、景気の現状に照らし、今後かなりの自然増収を生ずるのではないかと考えられますが、以上のような観点から、これを歳出規模の拡大に安易に充当することなく、今後増収の見通しが明らかとなるに応じ、適宜国債発行額を削減することは当然であると考えられ、これを適切に実行しう

る方法を検討すべきではないかと思うのであります。また申すまでもないことではありますが、その他政府部門の余裕金が累積するような場合には、その妥当な処理のための努力が払われることが望まれるのであります。

なお、国債発行下において金融政策は効果をあげにくいのではないかと議論も一部にみられるようではありますが、以上のように市場原理を尊重することにより、金融政策は所期の目的を十分に、かつ円滑に達成しうると確信いたしております。

(金融界への要望)

前に申し述べましたとおり、わが国経済は現在きわめて重要な時期に際会しているのであります。金融機関の責務もまことに大きいといわなければなりません。かかる観点から銀行のあり方につき、当面もっとも重要と考えられます諸点を、卒直に申し述べてみたいと存じます。

さきほど会長から、銀行界は自らに課せられた社会的責任に思いをいたし、新時代に即応した銀行経営の確立を図るべきであるとの所見が示されましたが、これはまことにごもっともであります。銀行は自由企業として、まずなによりも経営の合理化健全化に徹し、コストの軽減を通じて金利低下の基盤をつくることに努力していただきたいのであります。この見地からみて、銀行の貸出約定金利が長期にわたって低下し続けたことは注目されてよいと思います。また、これとともに銀行相互間ならびに産業界との協調に一段と留意され、銀行の負っている社会的使命を十分に自覚していただきたいのであります。現在、わが国経済

界の当面している課題としては、輸出の増強、国際競争力を強化するための設備投資、資本自由化に対処する産業構造の変革、中小企業問題など多くの事項を指摘できると思います。これらについては、政府がその解決に鋭意努力しておられますが、銀行も可能な限りにおいて協力することが望まれるのであります。

なお、特に輸出の振興はきわめて重要な課題ではありますが、先週の最高輸出会議におきまして、産業界の方々により熱心にこの問題が討議されたことは、まことに心強く感ずるところであります。輸出金融の優遇は、制度的にはすでにかなり整えられていると考えておりますので、その運用面において日本銀行としてもできるだけ配慮するつもりではありますが、各位におかれてもいっそう親切かつ積極的なご努力を願いたいのであります。

次に、これまでのわが国経済の発展をささえる重要な要因の一つが、国民の高い貯蓄率にあったことは周知のとおりであります。今後資本の自由化を契機として一段と経済の高度化、国際競争力の強化を図ってゆかねばならないおりから、個人貯蓄の増強は引き続き緊要な課題であるという点については、会長のご所見に全く同感であり、金融機関としても貯蓄の増強にいっそうのご努力を願いたいのであります。国民生活水準の安定的な上昇を図るについて、消費がただ増大しさえすればよいというものでは決してなく、貯蓄も同時に増加してゆかなければならないのであります。わたくしどもといたしましては、国民の貯蓄心を高めるためにも、通貨価値の安定に引き続き全力

を傾ける所存であります。

第3に、わが国の金融構造は、これまで間接金融方式に過度に依存してきたのでありますが、今後経済の健全な発展を図るためには、徐々に直接金融方式を拡大してゆくことが望ましいと考えます。直接金融方式の比重が高まりましても、銀行の職能の重要性がこれによって減退するわけでは決してなく、銀行の果たすべき分野は依然きわめて大きいことを理解され、新しい時代の方向に経営体制を即応させていただきたいのであります。特に直接金融方式を漸進的に拡大してゆくためには、公社債市場の育成強化が重要であることは申すまでもないのであります。

経営体制の刷新に関し要望いたしたい点は、資金ポジションについて従来以上の配慮を払ってほしいことであります。ポジションの改善は銀行経営の基本的課題でありまして、客観情勢の困難に藉口して努力を怠るようなことなく、今後いかなる情勢変化にも即応できる体制の整備に努力を傾けていただきたいのであります。

これと関連し、最後に申し上げたいのは、節度ある融資態度を維持することの必要性であります。くり返し申し述べましたように、景気情勢が微妙であるおりから、設備投資が行き過ぎないように、一段と慎重な融資態度をとるべきであると考

えるのでありますが、取引先の事業計画の全貌を常時把握するよう努力を傾けるとともに、あわせて業界の動向一般についても留意され、国民経済的観点から指導性を大いに発揮されますよう期待する次第であります。このように金融機関が節度ある態度を堅持してこそ、はじめて金融界の財政に対する要望も一般の支持を得られるのでありまして、各位にはこの点を深く銘記していただきたいのであります。

これを要するに、資本の自由化に即応し、外国の企業に負けないよう、日本の企業も銀行も堅実な経営基盤を確立することが、なによりも大切な時期であることを強調したいのであります。

(む す び)

以上わたくしは、わが国の経済、金融が短期、長期どちらの観点からみても、重要な局面に際していること、ならびにそれに対処してわれわれのとるべき態度を申し述べたつもりであります。金融界の指導的立場にあられる各位が、わたくしの意図するところを十分おくみとり下さいますよう希望いたすとともに、各位のご協力によりわが国経済が安定成長を持続し、国際経済社会におけるその地位をいっそう高めることを、衷心から念願いたし、わたくしのご挨拶を終わります。

(昭和42年6月12日)